

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2019年 11月 01日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 文学研究科

職 名・学 年 教務補佐員

氏 名 山本 寛樹

助 成 の 種 類	令和元年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	Cognitive Development Society 2019	
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()	
発 表 題 目	Do eye contacts by infants provoke speech from parents?	
開 催 場 所	アメリカ合衆国・ケンタッキー州・レイビル・Galt House Hotel	
渡 航 期 間	2019年 10月 16日 ～ 2019年 10月 21日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	250,000円
	使用した助成金額	250,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助 成 金 の 使 途 内 訳	旅費 195,000円
		滞在費 27,000円
		学会参加費 28,000円
(その他現地滞在費は私費にて充当した)		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)	

成果の概要 / 山本寛樹

文学研究科 教務補佐員 山本寛樹

1. 研究集会の概要

研究集会名：Cognitive Development Society 2019

開催場所：Galt House Hotel (アメリカ合衆国ケンタッキー州ルイビル市)

開催期間：2019年10月17日～19日

ウェブサイト：<https://cogdevsoc.org/destination/>

認知発達学会(CDS)は、乳幼児の認知発達研究における国際的、また学際的な協力を推進することを目的として設立されている。今年は2年ぶり11回目の開催であり、初日のプレコンgressを含めて3日間にわたって開催された。プレコンgressでは、いくつかのワークショップで開催され、より良い研究実践をすすめていくための技術・情報共有が研究者間で為された。2日目・3日目には、幼児の知覚・運動・高次認知に関わる発表が、細かなセッションに分けられて実施された。発達心理学の分野でも著名な研究者が数多く参加しており、活発な議論が交わされていた。

2. 発表の概要

申請者は学術大会3日目の「Poster Session IV」において、「Do eye contacts by infants provoke speech from parents?」と題した発表を行った。

成人の会話において、発話はジェスチャーや視線行動と協調してなされる。ジェスチャーやアイコンタクトは社会交渉の開始時や話者の交代のタイミングに生じ、スムーズな会話を可能にする。このようなジェスチャーやアイコンタクトは、前言語期の乳児と親との社会交渉でも頻繁に生じ、乳児の社会発達・言語発達にも影響を与える。乳児が産出する指さしやアイコンタクトは、共同注意のきっかけとなり、月齢とともにその頻度は増加していくことが報告されている。これまで、共同注意が乳児の後の言語発達と関連していることから、乳児の指さしやアイコンタクトは、親の発話を引き出し、言語の学習環境をかたちづくる一助となると想定されてきた。しかし、乳児のアイコンタクトが実際に親の発話を引き出すのか、日常的な言語環境をどのように変化させるのか、定量的なデータを用いた検討はなされていない。

このことは、いくつかの方法論上の問題に起因している。母子間視線交渉を扱った多くの先行研究は、ビデオカメラを用いて半構造化された母子の対面場面での視線交渉を記録してきた。しかし、母子が自由に動くことができる日常場面において、ビデオカメラでアイコンタクトという瞬間的なイベントを解析することは難しい。近年、頭部装着型視線計測装置を乳児に用いることで、室内を自由に動く乳児の視線行動を記録することが可能になってきたが、乳児の転倒を防ぐために常に研究者が乳児とともに移動を続ける必要があり、日常的な視線交渉を記録することには適していない。

申請者は、母親に頭部装着型視線計測装置を用いることで、日常場面の母子間のアイコンタクトを母親視点から記録し、乳児からのアイコンタクトが母親からの発話を引き出す効果があるのかを検討した。各観察日に記録した全アイコンタクトにおける乳児の発したアイコンタクトの割合を分析し、親から乳児への発話頻度との関連を検討したところ、乳児の発するアイコンタクトの割合が大きいかほど親が乳児に発話をする傾向があった。この結果

は、乳児のアイコンタクトと親の発話が結びついていることを示唆するものであり、乳児のアイコンタクトが親の発話を引き出す機能をもつことを支持するものである。

3. 発表の成果

発表の成果は大きく3点ある。

第一に、発表を訪れた多くの研究者と活発な意見交換を行うことができた点である。多くの研究者の指摘は「研究の目的にあたって、観察日の単位の解析は不十分なのではないか」というものであった。これは申請者自身も解析のなかで感じていたものであり、発表を聞きに来てくれた研究者と具体的な改善点を議論するなかで、より目的に合致したコーディング・解析手法についての多くのコメントをもらうことができた。

第二に、本大会では、頭部装着型視線計測装置を乳児に装着する研究を実施している複数の研究者と議論をすることができた点である。頭部装着型視線計測装置を親に装着するという申請者のアプローチとその有効性を紹介するだけでなく、頭部装着型視線計測装置を乳児に用いる方法の難点やそれを乗り越えるための研究者の工夫などを聞くことができた。申請者は現在、乳児に頭部装着型視線計測装置を用いる研究計画を立案しており、頭部装着型視線計測装置で分野の最前線を切り拓く研究者が現場で培ったノウハウを、研究計画時点で聞くことができたのは僥倖であった。

第三に、発表を聞きに来てくれたある研究者と共同研究を行う約束をとりつけた点である。彼女は、申請者の結果から想定される仮説を高く評価してくれ、議論をすすめるなかで当該仮説を共同研究としてともに検討するはこびとなった。海外の研究者と共同研究を実施することになったのは予想もしていなかったことであり、自身の研究のインパクトと、自身の研究が発展していく様をリアルタイムで実感することができた。

3. 謝辞

本学術会議への参加助成を行っていただいた貴財団に心よりお礼申し上げます。今回給付していただいた助成金に関しては、現地までの交通費、学術大会の参加費、宿泊費の一部として使用しました。今後も貴財団の発展を祈念いたします。様々な分野の方々との英語での議論は今後の研究人生を歩むうえでの大きな財産となりました。これからの貴財団のさらなる発展を祈願いたします。